



平成28年度

地(知)の拠点整備事業報告書  
【大学COC(Center of Community)事業】

# 看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた 地域のまちづくり事業



# Contents

ご挨拶 大分県立看護科学大学 学長・理事長	1
大分県立看護科学大学 看護研究交流センター長	2

## I. 大分県立看護科学大学 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)の概要

1 大分県立看護科学大学の取り組み	3
2 看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた地域のまちづくり事業	4
3 学部教育のカリキュラム改革ーより地域に貢献する大学へー	5
4 大分県立看護科学大学 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)の評価	6

## II. 大分県立看護科学大学 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)の推進組織体制

1 学内の事業推進組織体制	7
2 事業推進会議	9

## III. 大分県立看護科学大学 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)の実施報告

1 平成28年度事業経過	11
2 事業に係る会議	12
3 予防的家庭訪問実習	
●理念	14
●1～4年次生の実習の目的	14
●オリエンテーション	14
●グループワークでの学びのまとめ(学生アンケートより一部抜粋)	15
●概要	16
●実習内容	17
●感想	
(1)協力者	18
(2)学生	19
(3)教員	21
4 健康教室	
●目的	22
●概要	22
●実施内容	
(1)大学祭(若葉祭)	22
(2)高齢者サロン	23
(3)ななせの里まつりブース出展	24
5 学内での教育・研究体制	
●事業評価	
(1)対照群調査	25
(2)米国Colorado大学名誉教授Kathy Magilvy博士によるスーパービジョン	27
(3)外部発表	30
●予防的家庭訪問実習通信(学内メールマガジン)	30
学内メールマガジンの例	31
6 日本学術振興会による地方創生推進事業(COC+)平成28年度評価	32

## IV. 広報

1 大分県立看護科学大学・NBU日本文理大学合同シンポジウム～地域をまもり、地域をつくる、大学の取り組み～	33
2 テレビ放映(TOSテレビ大分)～家庭訪問実習場面～	36
3 ラジオ放送(OBS大分放送)～大学と地域の連携～	36

## 資料

大分県立看護科学大学 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)推進会議設置要綱	37
大分県立看護科学大学 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)推進会議幹事会運営要領	38
平成28年度 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)幹事会メンバー	38
平成28年度 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)地域連絡会議メンバー	38
平成28年度 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)推進会議委員名簿	39
平成28年度 訪問実習プロジェクトメンバー	40
平成28年度 看護研究交流センタースタッフ	40





## 「予防的家庭訪問実習」を正規の科目として実施して

平成25年度に文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採択された、「看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた地域のまちづくり事業」は、本学の地元である大分市野津原地区と富士見が丘団地の協力者のお宅を、学生たちが大学4年間を通して継続的・定期的に家庭訪問して高齢者の健康や生活などを把握し、同時に、高齢者ができるだけ自立して自宅で暮らすことができるように予防活動を行うというものです。これによって、地域の活性化にも貢献することを目的としています。学生たちは、1～4年次生がチームになって訪問しますので、上級生にはリーダーシップが生まれ、下級生も異なる学年との交流から様々な学びがあります。

28年度は、本事業の4年目にあたります。既に、27年度から、本実習を学部生の正規の科目に位置付け、老年看護学の4単位中3単位を、この実習で行っています。28年度には、全337名の学生が、計1,331回の訪問をしました。全教員が29のペアになり、各ペアが2または3チームを受け持ちました。各チームは、コンタクトグループを兼ね、学生の卒業まで続きます。また、28年度には「対照群調査」も行いました。地元のサロンに通う方々、計270人の血圧や握力などの測定、睡眠状況や運動習慣などの健康に係る質問をさせて頂き、その結果を個別に郵送で返却致しました。28年度は、「対照群調査」時に大学主催の健康教育を同時開催し、教職員・学生が協働して地域住民の方の健康支援活動に取り組みました。家庭訪問実習や対照群調査、健康教育などを通して、学生は多くの学びを得ることができました。

本学の取組は、幸い、日本学術振興会の中間評価で、最高ランクのS評価を受けることができました。評価対象となった76件のCOC事業の中で、S評価は7件のみでした。これも、ご協力者や地域の方々、本事業の御関係の方々のご協力の賜物です。心から感謝申し上げます。

大学は、地域の皆様に支えられてこそ日々成長していくことが出来ます。地元、野津原地区と富士見が丘団地をはじめ、大分郡市医師会、大分県看護協会、大分県国民健康保険団体連合会、大分市役所福祉保健部、大分市保健所、大分県福祉保健部などのご支援で、無事に28年度の事業を終了し、更に次に向かうことが出来ることを感謝しています。

本事業が地域の活性化につながり、一つのモデルとして、大分から全国に発信していけるよう努力して参りたいと存じます。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成29年3月

大分県立看護科学大学  
学長・理事長 村嶋 幸代

## ご挨拶



### 「本格実施二年目を迎えた予防的家庭訪問実習」

本事業は平成28年度で四年目を迎え、予防的家庭訪問実習が全学的・本格的にスタートしてから二年目となりました。このように1～4年次生全員が学年を超えた縦割りチームを組んで、在宅高齢者を定期的に訪問するという実習は前例がありませんでした。このため、本実習を全学的に実施してみると、試行段階では想定していなかった課題も見えてきたのが、平成27年度の状態でした。それらを二年目にできるだけ軌道修正し、持続可能な仕組みとすることを目標にしてきた、平成28年度の経過を報告いたします。

実習協力者の皆様は、変わらずあたたかく学生を受け入れてくださいました。学生も、当初は慣れない形の実習でとまどいがあったようですが、二年目に入ると少しずつ、楽しみながら本実習に取り組むようになってきたように見えます。それはまた、協力者の皆様のあたたかいご支援を、肌身に感じたからでもあります。さらにその中で、他の実習では経験できないことを味わい、成長し始めている様子も見え始めました。地域の中で生活している方々にお会いして、お話を聞かせていただいたり、生活を見せていただいたりするうちに、病院実習では考えきれなかったことを考察した学生もいました。協力者の方への小さな提案や健康指導が喜ばれたことで、大いに力づけられた学生もいました。本実習が学生や協力者の皆様、さらには地域社会にもたらした影響については、ただいま少しずつ検証を進めており、結果を学会等で発表し始めているところです。

また平成28年度には、全国の各大学における「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」について、日本学術振興会による中間評価がありました。幸いにして本事業は、4段階評価の最高に相当するS評価を受けることができました(平成25年度選定51事業中7事業のみ)。本学の特色(公立、看護学部、小さな単科大学)を発揮していることが認められたものです。ここまで漕ぎつけたのは、最初から一貫して、自治会、社会福祉協議会、地域包括支援センター、民生児童委員協議会、大分市、大分県など、地域の多方面の皆様からご支援をいただいたお陰です。この場を借りまして、関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。

今後も本事業を全学的に推進し、本学が地域の知の拠点として役割を果たすこと、そして地域に根差した“学”を追求することを求めて、いっそう努力を重ねたく存じます。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

平成29年3月

大分県立看護科学大学  
看護研究交流センター長 影山 隆之

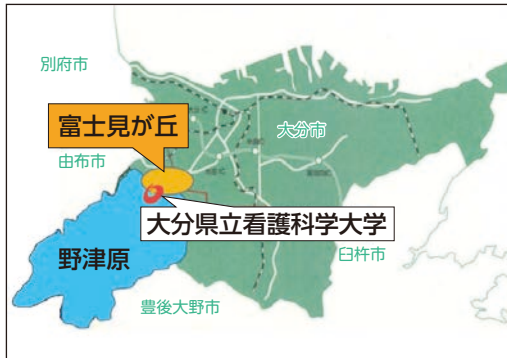
# I

大分県立看護科学大学  
地(知)の拠点整備事業  
(大学COC事業)の概要



# 1

## 大分県立看護科学大学の取り組み



### 地域の課題

大分県立看護科学大学（以下「本学」という。）は、北東に富士見が丘団地、南西に旧野津原町が広がっている。両地区とも高齢化率が高く、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の増加という現代の日本が直面する共通の課題を抱えている。

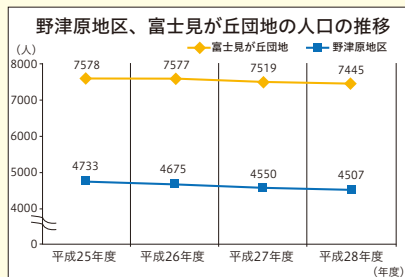
### 野津原地区

東西12.5km、南北7.5kmの広大な土地に4,507人が住んでいる。高齢化率は平成28年3月には42.5%と高い。地域で支えあう習慣はあるが、若者が激減しており、これまで高齢者を支えてきた人たちも、高齢者になりつつある。また、山間部ほど高齢化が進み、集落が小規模で分散している。

公共の交通機関がほとんどないため、病院、スーパー、郵便局等へのアクセスが自力では難しい。人口の減少が深刻で、高齢者の孤立化が課題となっている。

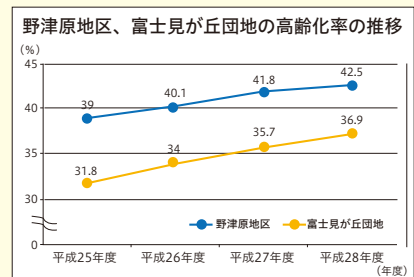


面積：90.83km<sup>2</sup> 人口：4,507人



共通の課題  
孤立しがちな高齢者への対策

きめ細かい支援が必要



### 富士見が丘団地

昭和40年代に開発された一戸建て住宅からなる東西2.0km、南北1.3kmにわたる郊外型団地である。開発後、約40年が経過するため高齢化が著しく、かつ、その進行も速い。人口7,445人のうち65歳以上の占める割合は平成28年3月には36.9%となり、対前年比で1.2%の増加となっている。

一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が多く、3つある自治会やその上部組織である連合自治会も、介護予防プログラムに積極的である。一方で地形的に坂と階段が多く、高齢者が外出しにくい、公民館でサロンが開かれても、虚弱な高齢者が徒歩で参加するのは難しい状況にある。また、介護予防のイベントを行っても特定の人しか集まらないため、自宅に閉じこもっている人にどのようにアプローチをするかが課題となっている。



面積：2.6km<sup>2</sup> 人口：7,445人

出展データ：平成28年3月 大分市ホームページより

# 2

## 看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた地域のまちづくり事業

### 1. 目的

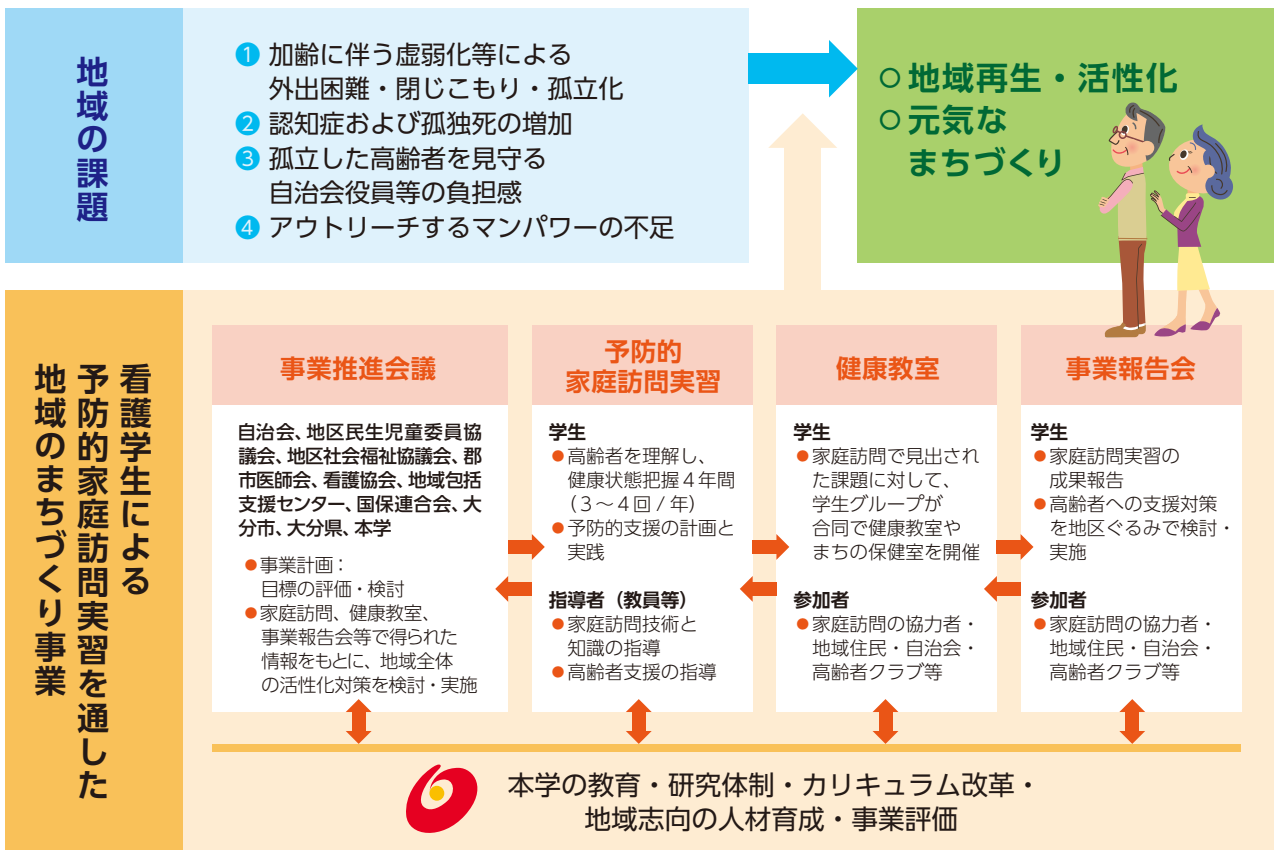
学生が大学4年間を通して継続的に予防的家庭訪問を行い、高齢者の健康状態や生活実態などを把握し、心身の機能低下予防に向けた支援を行うことによって、地域の高齢者の自立を促進するとともに、地域の再生・活性化に寄与することを目的とする。

### 2. 事業内容

- ① 高齢化が進む地域で、学生が予防的家庭訪問実習（看護学実習の必修科目）を行う。孤立化しがちな75歳以上の高齢者に対し、卒業までの4年間、定期的かつ継続的に家庭訪問を実施し、高齢者の機能低下を予防する。
- ② アウトリーチにより、早期に把握された高齢者の課題は、学生が地域の健康課題として集約し、公民館等で健康教育等を行う。また、早期に対応が必要な場合は、当該高齢者の了解を得て、関係機関につなぎ、解決を図る。
- ③ 定期的に行行政や自治会、高齢者クラブ等の組織や団体と話し合う場を設け（事業推進会議等）、一緒に地域の課題を解決していく（まちづくり）。

### 3. 事業効果

学生が予防的家庭訪問実習を行うことにより、地域で暮らす高齢者の状況が明らかになり、より深く地域の現状がわかる。本学の教育研究活動を通して地域の問題を吸い上げ、明確にし、地域と本学でその課題に対応する方策を考える契機とする。地域の関係者と会議や事業報告会（地域交流会）を定期的実施することにより、事業を円滑に進めると同時に、地域の課題を一緒に考える共通基盤をつくる。



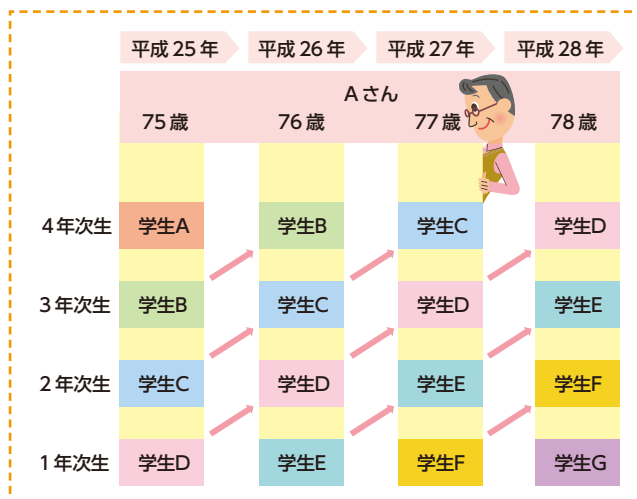
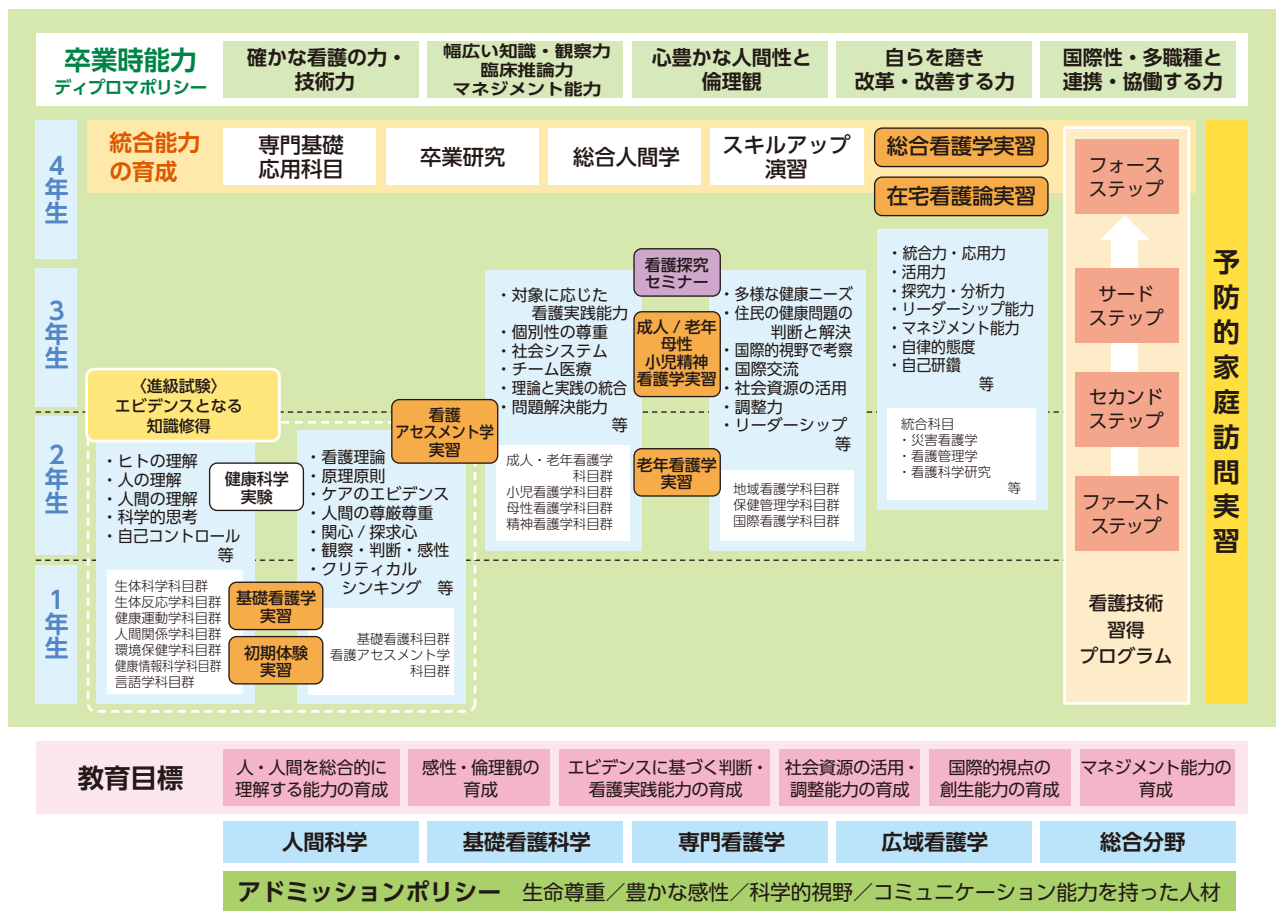


# 3

## 学部教育のカリキュラム改革 —より地域に貢献する大学へ—

ほとんどの看護学実習は、専門の指導者のいる施設で、週単位の限られた期間での実習形態となっている。そのため対象者を長期間かけて状態の変化を理解したり、看護するという視点が育ちにくい。この限界を打破するため、カリキュラムを改定して予防的家庭訪問実習を創設し、自宅で生活する高齢者を学生が4年間を通じて関わり継続的に訪問する過程で協力者からの学びを大切に、高齢者のニーズに合わせた支援ができることを目指す。

本学のカリキュラム全体は4年間で看護師を教育するプログラムである。その間、6段階の臨地実習により看護実践能力の習得を図るが、これに、平成27年度から予防的家庭訪問実習を本格的に導入し、地域を志向したカリキュラムに変革した。



予防的家庭訪問実習では、1年次生から4年次生の縦割りでグループを構成する（基本グループ人数4名）。学生は学年を超えたグループメンバーと共同作業を行うこととなり、他の学年との交流や意見交換が可能となる。

人間科学系と看護学系の教員がペアになり各グループの指導にあたる。各教員ペアは2~3グループを担当し、各訪問の前後にアドバイスをすると共に、初回および、その年度の最後には学生の訪問に同行する。

定期的の実習合同会議を開催し、教員間の意見調整・共通認識を図る。

## 4

# 大分県立看護科学大学 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)の評価

高齢者・地域（野津原地区・富士見が丘団地）・学生・大学の各々に対して評価指標を設定している。事業開始4年目にあたる平成28年度は、下記の指標を立て評価を開始した。

対 象	課 題	対策（本事業）	効果（アウトカム）
高 齢 者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢に伴う虚弱化等による外出困難・閉じこもり・孤立化</li> <li>・認知症の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の訪問受入で定期的な会話と役割感を持つこと</li> <li>・定期的な健康管理</li> <li>・近所の健康教室等へ参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤立化の緩和（外出回数の増加、閉じこもり・うつ傾向の減少）</li> <li>・QOLの維持・向上</li> <li>・救急搬送・受診回数の減少</li> <li>・入院・入所の日数や回数の減少</li> <li>・介護保険認定状況の改善</li> </ul>
地 域 〔野津原地区〕 〔富士見が丘団地〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤立した高齢者を守る自治会役員等の負担感</li> <li>・アウトリーチするマンパワーの不足</li> <li>・地域の衰退</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤立しがちな高齢者を訪問するマンパワーの確保</li> <li>・学生が定期的に地域に入ることで活力が得られること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤立しがちな高齢者にアウトリーチできること</li> <li>・学生の訪問により高齢者や地域の活性化・再生、まちづくりへ発展</li> <li>・介護予防のイベントやサービスへの参加（利用者）者の増加</li> </ul>
学 生・大 学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期間の看護学実習</li> <li>・協力者を生活の場で長期間支援する体験が難しいカリキュラム</li> <li>・家庭訪問する機会・期間が限られている教育・限定的な教授方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年間通して同一協力者をフォローし、健康状態を見ていく実習体験</li> <li>・カリキュラム改革</li> </ul>	<p>〈学生〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者への継続的関わりの中で、家庭訪問・コミュニケーション・健康教育・アセスメント・ケアマネジメント等技術の向上</li> <li>・予防的視点と問題解決思考が訓練されること</li> </ul> <p>〈大学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法の改善・改革</li> <li>・地域で暮らす高齢者の健康状態経年把握</li> </ul>

# II

大分県立看護科学大学  
地(知)の拠点整備事業  
(大学COC事業)の推進組織体制



# 1

## 学内の事業推進組織体制

### 学内の事業推進組織体制（8頁参照）

平成28年4月1日現在

#### ●訪問実習プロジェクト

地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）の運営を担う。事業計画・事業評価計画を検討するなど、COC事業の中心的役割を果たす。実務・教育・事業評価部門を設け、連携して事業を遂行する。

#### ●看護研究交流センター

訪問実習プロジェクト事務局を設置し、地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）の実務を担当する。

地域や連携自治体との窓口として、野津原地区・富士見が丘団地の地域組織、並びに協力者との連携を図る。また物品の購入・管理、記録の管理などを行う。学生に対しては、家庭訪問マナーに関する指導を担当するとともに、マナーオリエンテーションなどを実施し、学生の教育・指導をサポートする。

事業評価に関しては、事業評価部門の研究室や地域と連携し事業を遂行する。

#### 【主な役割】

- ①地（知）の拠点（COC）整備事業（大学COC事業）に関する会議の開催
- ②予防的家庭訪問実習の協力者のリクルート
- ③予防的家庭訪問実習の協力者や地域や連携自治体との窓口
- ④予防的家庭訪問実習の協力者・学生・学生チーム担当教員のサポート
- ⑤看護研究交流センター教職員による年度終了時の訪問

#### ●実務部門

学生チーム編成担当 ※1

学生や教員のチーム編成を行う。

実習記録管理担当 ※1

実習記録を電子化し、円滑に実習が進むように図る。

#### ●教育部門

①単位認定担当：8研究室

・学生の実習評価・単位認定

学生の実習内容や記録物をもとにチーム担当の教員が評価を行い、最終的には、各学年の単位認定の2教室の責任者が学位認定を行う。

・実習に関する担当学年の教育

本実習に関係する講義、演習、オリエンテーション等を検討する。

・実習全体の評価

実習に関する教育効果等を評価する。

②実習チーム担当

・指導体制

教員2名（人間科学系・看護学系）が複数の学生チームと協力者を担当し、指導に当たる。

・家庭訪問

初回および、その年度の最後の訪問は同行し、学生指導を行う。

・実習に関する相談・連絡

学生および協力者に問題等が発生した場合は担当教員間で協議し、必要に応じて、単位認定研究室代表者に連絡・相談する。また、地域の実習関係者への相談等が必要な場合は、看護研究交流センターへ連絡する。

・緊急時の対応や事業報告会（地域交流会）の準備・指導

・評価

学生の訪問日数（回数）、訪問内容、態度、記録、レポート等に関する評価を年度末に行い、評価表に入力する。

③家庭訪問マナーに関する指導担当 ※1

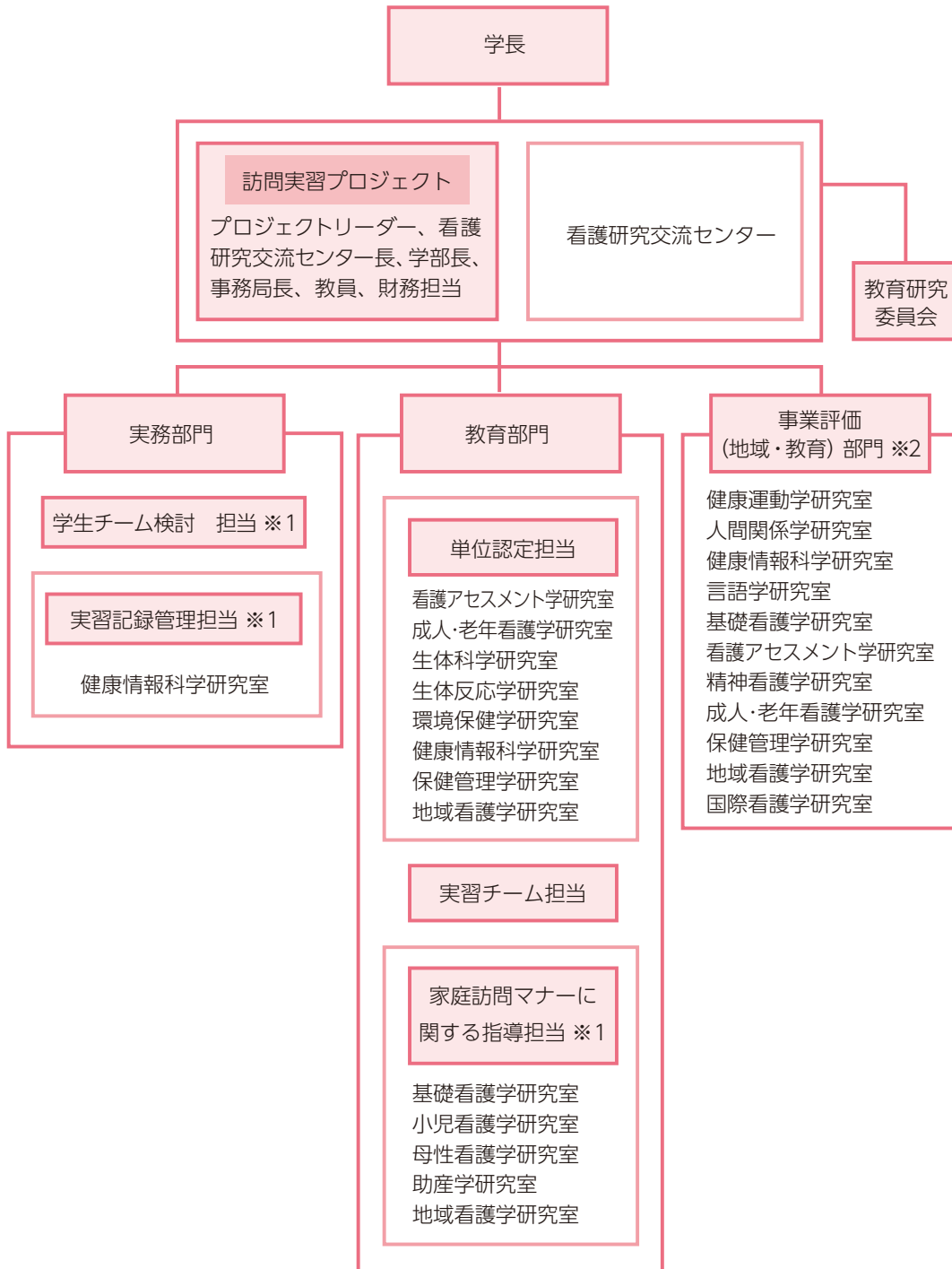
学生オリエンテーションでマナーに関する指導を実施する。

#### ●事業評価部門 ※2

地域志向性の高い教育・研究を進めるため、予防的家庭訪問実習の協力者・学生・地域に対する事業の評価指標と調査方法を検討する。事業評価に関する学内の役割分担を行う。

# 学内の事業推進組織体制図

平成 28 年 4 月 1 日現在



(備 考)

上記のうち、※ 1 は、本事業開始 4 年目となった平成 28 年度には実質的な機能・役割を終えている。

※ 2 については、訪問実習プロジェクトが中心に行っている。

# 2

## 事業推進会議

大学と関係者によって構成された事業推進会議を年3回開催し、事業の計画、中間評価、および事業評価などを行う。

### 事業推進会議関係機関・団体

平成28年4月1日現在

#### 野津原地区

野津原地区自治委員連絡協議会  
野津原地区社会福祉協議会  
野津原地区民生児童委員協議会  
野津原地区地域包括支援センター  
大分市市民部野津原支所  
大分市保健所健康課西部保健福祉センター  
野津原健康支援室

#### 富士見が丘団地

富士見が丘連合自治会  
横瀬地区社会福祉協議会  
横瀬地区民生児童委員協議会  
植田西地区地域包括支援センター  
大分市市民部  
大分市保健所西部保健福祉センター

#### 大分市

福祉保健部長寿福祉課  
保健所健康課

#### 大分県看護協会

#### 大分県

福祉保健部福祉保健企画課  
福祉保健部医療政策課  
福祉保健部高齢者福祉課

#### 大分郡市医師会

#### 大分県国民健康保険団体連合会

事業課





# Ⅲ

大分県立看護科学大学  
地(知)の拠点整備事業  
(大学COC事業)の  
実施報告



## 1

## 平成28年度事業経過

平成28年 3月22日	第1回訪問実習プロジェクト会議
4月 4日	新任教員への予防的家庭訪問実習の説明
4月 9日	49th Western Institute of Nursingにてポスター発表
4月13日	予防的家庭訪問実習全学オリエンテーション
4月14日	平成28年度予防的家庭訪問実習開始
5月14日～15日	学園祭(若葉祭)にて健康教室(塩分当てクイズ・認知症予防)の開催
5月30日	第1回地域連絡会議(野津原地区・富士見が丘団地)
5月31日	第2回訪問実習プロジェクト会議
6月 2日	第1回幹事会
6月14日	第1回事業推進会議
6月15日	テレビ大分(TOS)による取材
8月 4日	第1回対照群調査(野津原支所 多目的ホール/ななせ生きがいクラブ)
8月 8日	第3回訪問実習プロジェクト会議
8月23日	第2回対照群調査(原村ふれあいセンター/原村ふれあいサロン)
9月 1日	第3回対照群調査(竹の内公民館/竹の内ふれあいサロン)
	第44回九州地区学生指導研究集会にて講演
9月 2日	第4回対照群調査(田島公民館/田島地区こころの会)
9月 6日	大分放送(OBS)ラジオ番組による取材
9月 8日	第5回対照群調査(Nスポランド/Nスポいきいき元気教室)
9月12日	第6回対照群調査(富士見が丘公民館/わかば老人クラブ、長寿会)
9月13日	第7回対照群調査(野津原支所 大会議室/サプナ健康体操チーム)
9月15日	予防的家庭訪問実習通信(学内メールマガジン)の配信開始
9月29日	第8回対照群調査(上詰公民館/上詰ふれあいきいきサロン)
10月 3日	第4回訪問実習プロジェクト会議
	第2回幹事会
10月 6日	第2回地域連絡会議(野津原地区・富士見が丘団地)
10月10日	第1回公立大学学長会議「地域づくりと公立大学の教育」にて講演
10月11日	第2回事業推進会議
10月12日	第9回対照群調査(富士見が丘公民館/はつらつサロン)
10月13日	第10回対照群調査(新町公民館/新町地区ふれあいサロン)
10月27日～28日	第75回日本公衆衛生学会 ポスター発表・ブース展示
10月29日	九州・沖縄COC / COC+合同シンポジウム ～大学が変わる×学生が動く×地域が起つ=地域創生～にて講演
11月 6日	ななせの里まつり ブース出展
11月15日～22日	Kathy Magilvy博士来学
平成28年12月 5日～ 平成29年 3月 9日	教員による年度終了時の協力者宅訪問
平成29年 1月31日	第5回訪問実習プロジェクト会議
2月 2日	第3回地域連絡会議(野津原地区・富士見が丘団地)
2月 6日	第3回幹事会
2月14日	第3回事業推進会議
2月18日	平成28年度地(知)の拠点整備事業 成果発表会&合同シンポジウム
2月22日～3月23日	平成29年度予防的家庭訪問実習協力者新規リクルート
2月28日	平成28年度全教員による実習検討会

# 2

## 事業に係る会議

事業の計画、進行管理、評価などを行う事業推進会議を、岩波栄逸会長（大分郡市医師会理事）をはじめ39頁に示す委員により構成し、年3回開催した。

また、事業推進会議の準備会議的な位置づけで、大分市等の関係者との幹事会、地域代表者との地域連絡会議を開催した。

学内では訪問実習プロジェクト会議を年5回開催し、事業の詳細について検討した。

### ●事業推進会議

#### 第1回 事業推進会議

日時：平成28年6月14日（火）14：00～15：30

場所：大分県立看護科学大学 中会議室

#### 第2回 事業推進会議

日時：平成28年10月11日（火）14：00～15：30

場所：大分県立看護科学大学 中会議室

#### 第3回 事業推進会議

日時：平成29年2月14日（火）14：00～15：30

場所：大分県立看護科学大学 中会議室

### ●幹事会

#### 第1回 幹事会

日時：平成28年6月2日（木）14：00～15：15

場所：大分市保健所西部保健福祉センター

#### 第2回 幹事会

日時：平成28年10月3日（月）14：00～15：00

場所：大分市保健所西部保健福祉センター

#### 第3回 幹事会

日時：平成29年2月6日（月）14：00～15：15

場所：大分市保健所西部保健福祉センター

### ●地域連絡会議

#### 第1回 地域連絡会議（野津原地区・富士見が丘団地）

##### ・野津原地区

日時：平成28年5月30日（月）10：50～11：40

場所：野津原支所

##### ・富士見が丘団地

日時：平成28年5月30日（月）10：00～10：40

場所：富士見が丘公民館

#### 第2回 地域連絡会議（野津原地区・富士見が丘団地）

##### ・野津原地区

日時：平成28年10月6日（木）11：20～12：00

場所：野津原支所

##### ・富士見が丘団地

日時：平成28年10月6日（木）10：00～10：40

場所：富士見が丘公民館

第3回 地域連絡会議（野津原地区・富士見が丘団地）

・野津原地区

日時：平成29年2月2日（木）11：00～11：30

場所：野津原支所

・富士見が丘団地

日時：平成29年2月2日（木）10：00～10：30

場所：富士見が丘公民館

●訪問実習プロジェクト会議

第1回 訪問実習プロジェクト会議

日時：平成28年3月22日（火）16：30～18：20

場所：大分県立看護科学大学 中会議室

第2回 訪問実習プロジェクト会議

日時：平成28年5月31日（火）13：30～14：30

場所：大分県立看護科学大学 中会議室

第3回 訪問実習プロジェクト会議

日時：平成28年8月8日（月）11：00～12：00

場所：大分県立看護科学大学 中会議室

第4回 訪問実習プロジェクト会議

日時：平成28年10月3日（月）10：00～12：00

場所：大分県立看護科学大学 中会議室

第5回 訪問実習プロジェクト会議

日時：平成29年1月31日（火）10：40～12：10

場所：大分県立看護科学大学 中会議室

●全教員による実習検討会

日時：平成29年2月28日（火）10：30～12：00

場所：大分県立看護科学大学 23講義室

テーマ：①平成28年度実習報告

②地域志向にシフトする看護学教育

③平成29年度実習計画（案）

# 3

## 予防的家庭訪問実習

### ●理念

本実習は、高齢者への継続的な家庭訪問を通して、その人々のよりよい生活や健康の実現をめざすものである。具体的には、野津原地区と富士見が丘団地に住む75歳以上の協力者を募り、1～4年生がチームとなって訪問する。

本実習の理念は以下のとおりである。

- ・ 予防的な家庭訪問を通じて地域に住む高齢者の健康や生活について学ぶ。
- ・ 高齢者が自立して自宅で暮らすことができるよう、本人と一緒に機能低下予防対策を考察し、可能な限り実践する。
- ・ 一人一人の高齢者の健康への支援を通して、地域資源や生活、再生・活性化について考えると共に、可能な点には貢献する。
- ・ チームとして家庭訪問することを通して、学年を越えた支えあいの大切さを学ぶ。

### ●1～4年次生の実習の目的

- ・ 1年次生は、在宅で生活する協力者とコミュニケーションをとり、地域で生活する人の全体像を理解することができる。チームメンバーとして協力し他のメンバーを支える。
- ・ 2年次生は、担当する協力者を生活者の視点でとらえ、健康や生活の在り様をアセスメントすることができる。また、その方法を他学年と共有する。チームのメンバーとしてチーム成員を支える。
- ・ 3年次生は、担当する協力者の健康や生活をアセスメントした結果に基づいて、必要な援助を考え実施できる。また、チームのサブリーダーとして、その方法を他学年と共有し、継続した援助を行うことができる。
- ・ 4年次生は、担当する協力者の健康や生活に関するアセスメント、それに基づく実践を行いながら、チームのリーダーとしてその方法を他学年と共有し、継続した援助を実践することができる。

### ●オリエンテーション

- ・ 日 時：平成28年4月13日（水）9:00～16:10
- ・ 場 所：講堂・各講義室
- ・ 参加者：合計405名  
（1年次生91名、2年次生78名、3年次生86名、4年次生76名、教員56名、職員10名、看護研究交流センター教員6名、職員2名）
- ・ オリエンテーション内容
  - ①オリエンテーションの目的説明
  - ②学長挨拶（実習の意図の説明）
  - ③DVD放映（訪問の様子）
  - ④実習説明（理念・目標・心得・年間スケジュール・チーム編成・家庭訪問の方法・記録・カンファレンス・評価）
  - ⑤学生発表 皆見 莉香（2年次生）石原 百恵（3年次生）末延 里沙（4年次生）
  - ⑥講話 大分市市民部野津原支所長渡邊信司氏  
大分郡市医師会岩波栄逸理事（岩波内科クリニック医院長）



講堂にて説明を聴く学生



グループワーク

### ⑦グループワーク

#### A. 1チームのみで実施

チーム間での自己紹介

訪問協力者の情報確認：連絡先、住所、地図等

年間の訪問計画

協力者へのチームメンバーの紹介資料の準備（メンバーの学生の氏名・顔写真等）

ロッカーと訪問拠の確認

#### B. 2～3チーム合同で実施

チーム毎に昨年度の訪問実習での学びの発表し、意見交換

### ●グループワークでの学びのまとめ（学生アンケートより一部抜粋）

- ・自分たちが気づけていない情報や観察しないといけない部分を他のチームから指摘され、そのことが必要であると気付くことができました。
- ・平成27年度の実習をコミュニケーションを目標にして取り組んでいたチームが、他のチームで看護介入（塩分濃度の測定を継続的に行い指導につなげていたり、内服忘れのための防止にカレンダーを作成したりなど）をしていることを知り、今年度自分たちも介入したいと思う。
- ・他のチームと協力者の同じ問題点で悩んでいるチームが、他のチームの介入方法や協力者が変化したことを知り、自分たちのチームの訪問にも生かしたいと思う。

●概要

・実習協力者

野津原地区46人（57.5%）、富士見が丘団地34人（42.5%）の合計80人である。  
協力者の概要は以下の通りである。

平成28年4月1日現在 単位：人（%）

地 区	性 別	一人暮らし	夫婦二人暮らし	子どもと同居	その他	合 計
野津原地区	男	7	9	6	1	23 (28.75)
	女	8	5	9	1	23 (28.75)
	合 計	15	14	15	2	46 (57.50)
富士見が丘団地	男	2	8	3	1	14 (17.50)
	女	12	6	1	1	20 (25.00)
	合 計	14	14	4	2	34 (42.50)
合 計		29 (36.3)	28 (35.0)	19 (23.8)	4 (5.0)	80 (100.0)

・訪問期間

平成28年4月13日（水）のオリエンテーション後～平成29年1月31日（火）  
※原則として、土日祝日、夏季・冬季休暇期間は訪問実習を行わない。

・協力者の変更

協力者や協力者の家族の体調の変化や、生活の変化、家庭の事情などにより、協力者10名が変更。  
新たな協力者のリクルートには、地域包括支援センターや民生委員の協力を得た。

・訪問回数

全学生が1～4年次生で80チームを編成し、1～2ヶ月に1回程度訪問する。  
各学年が年間4回以上訪問する。

・実施状況

協力者が受けた訪問回数（平成29年1月31日現在）

4回：1チーム、5回：9チーム、6回：46チーム、7回：18チーム、8回：4チーム、9回：2チーム



家庭訪問前のカンファレンスをする学生と教員



徒歩で協力者宅に向かう学生



## ●実習内容

1年目は協力者を理解し、2年目はそれぞれの協力者に合った方法で支援しているチームが多くみられた。

血圧や体力測定だけではなく、健康に関するパンフレットを作成し訪問時に説明したり、協力者と一緒に体操をしたりするチームも多くなった。

また、屋外で協力者と活動するチームも出てきた。協力者の生きがいや地域での活動に着目し、一緒に近隣でウォーキング、公民館での運動、釣り、ボランティア等に参加するチームがあった。



家庭訪問前に血圧測定の練習をする学生



協力者と学生と一緒に作成した日記



手作りのパンフレットを用いて話をする学生



手の体操をする学生と協力者



公民館にてスカットボールをする協力者、学生の様子（地区のスポーツに参加）



釣りをする協力者、学生の様子



協力者と共に地区のボランティア活動に参加する学生



## (2)学生

全体として本実習を楽しんでおり、地域で生活する高齢者への視点が自然と身についてきたように見える。また、学年縦割りのチーム編成により、下級生は上級生に学び、上級生にはリーダーシップが育ってきていることがうかがえる。

### 平成28年度学生の最終レポートより抜粋

#### ①1年次生

##### 高齢者理解の促進

- ・ 普段あまりかかわることのない高齢者の方と交流できた。高齢者がどのような生活をしているのか、困っていることなど、病気のことについても知ることができた。
- ・ 何を話してよいかかわらず初めの頃は不安と戸惑いが大きかった。先輩たちのリードもあり少しずつ緊張も解け、自分から話しかけることができるようになった。協力者さんがとても優しい方で、訪問をするのが楽しみになっていった。

##### チーム、先輩からの学び

- ・ 先輩方もいろいろなことについて教えてくださったため、初めてで緊張している時でも心強かった。
- ・ 1年後、2年後はこんな人になっていたらいいと思うような先輩方に出会えて、自分の目標ができた。各学年1人ずつがチームになって家庭訪問ができることは、1年生にとってとても勉強になると思う。
- ・ 先輩と協力者さんの会話を聞くと、協力者さんの何気ないひとことを深く掘り下げ、会話を広げるとともに、困っていることなどを見出していた。自分も先輩のようになりたいと思った。
- ・ 他学年との関わりが増え、協力しながら訪問実習を行うことができたと感じる。先輩方が日程を立て、協力者に電話をしてくれ、私はバッグの管理に努めた。自分ができることを、チームの一員として行動することができたと思う。

#### ②2年次生

##### 対象理解の深まり

- ・ 2年目になり、協力者の性格や生活がわかっているからこそ健康維持のための提案を行う上で、協力者が十分に理解できるような資料づくりを行うことを心がけることができた。
- ・ 高齢者の自宅での生活を考えることができたため、病棟実習で受け持ち患者の入院前と退院後の生活がどう変化するのかなどについても参考にすることができた。

##### 多学年協働による学び

- ・ 他の学年の学生と訪問することで、自分にはない視点で協力者さんを見ていて、勉強になることが多かった。
- ・ 協力者の生活背景や生きがい、健康状態を把握し、同じチームのメンバー・協力者本人とともに困っている点について考え、支援することができた。
- ・ 自分があまり訪問できなかった分、他のメンバーから支えてもらい、コミュニケーションなどに関しても他のメンバーと協力し合い支えあうことができたと感じた。
- ・ チームの中でも、情報を共有したり、学年間で意見を交換したりとしっかり話し合いができた。学年ごとの視点の違いから理解も深まったことも多かったと感じた。

#### ③3年次生

##### 生活者としての理解の深まり

- ・ 御自身でも地域の活動にも参加したりするようになったと話す協力者は、以前（昨年度）の地域との関わりを避けていた頃とは異なり、病気（副作用）を抱えながらもだんだん地域に戻っていかうとしていると感じた。
- ・ 協力者が代わったことによって今までの方とは違った、地域の方の生活状況や新たに発見できた学びがあったため、結果的にはいい経験が出来たと感じた。

- ・訪問を重ねるごとに協力者の方から学生に対して加齢に伴う心身の衰えや悩み等を気軽に話してくださるようになり、地域に住む高齢者が抱える健康や生活についての思いを知ることができた。
- ・協力者から様々な話を聴くことにより、以前よりもより深く高齢者の健康支援について考えることができた。
- ・実習のためではなく、協力者のために考えて、関わりを行えるようになった。これらは同じ形で4年間継続して行う実習だからこそ感じる事が出来る自分の成長であると考えている。
- ・1回の訪問時間は、あまり長くないがその短時間の会話の中で、地域の高齢者の方の健康状態や生活、健康維持のための工夫について学ぶことができ、定期的に他学年の生徒と交流する機会を設けることができ、先輩として自覚を持つことができた。

#### ④4年次生

##### 地域で暮らす高齢者の理解の深まり

- ・家庭訪問自体とても楽しく参加している一方で、自然と地域で生活する高齢者の方々の目線が身についているのだと感じることができ、自信につながった。
- ・自分だけで物事を進めていくのではなく、上級生下級生関係なく周囲の協力を得ることで協力者さんのためによりよいかかわりができることを学んだ。さらに、1年生の発言を聞くと新鮮さや斬新さがあり、多種多様な関わり方を考え、検討することで看護の質を高めることができると感じた。
- ・地域で生活する高齢者を支えるためには、看護職自身が地域を知っていること、また地域資源とのネットワークを持っている必要があることを強く感じた。
- ・協力者さんとの会話を通して、コミュニケーションスキルの向上につながった。
- ・病院での実習だけでは得られないものを多く経験することができ、学生時代の貴重な体験になった。
- ・訪問することで、地域の高齢者の生活を知ることができ、病院実習の先にあるものを学ぶことができた。

#### ⑤家庭訪問実習に対する学生からの意見や要望

- ・学年によって授業が違うので、チームメンバーの予定を合わせるのが一番大変。
- ・訪問するメンバーが違う時もあるので、毎回協力者に同じ質問をしていないか心配。
- ・訪問の時、協力者の話が終わらなく、切り上げ方が難しい。
- ・協力者と電話が繋がらないことが多い。連絡が取り易い体制があるとよい。
- ・訪問の期間が空かないように年度の初めにいつ行くか決め、その日は授業が入らないようにするとよい。
- ・実習などの関係で7月に本年度の訪問を終えてしまう学生もいるが、それでは意味がない。継続的に家庭訪問実習を行っていないチームが多い。
- ・現在訪問実習に協力してくれている人はサロンに参加している人が殆どである。サロンに参加していない人にも、この実習が広まっていくとよいと思う。
- ・黒いズボンと白いポロシャツが必要と知ってから訪問までの期間が短く、準備に困った。できるなら入学前に知らせてほしかった。
- ・協力者に新しい血圧計をプレゼントしてあげたい。だいぶ古く昔の血圧計であるため、毎回数値が変わってしまっており、せっかく健康を意識し1日2回測定する習慣がついているのに、意味がないと測定習慣をやめてしまうかもしれないから。
- ・チームごとに使える経費がほしいと思った。私たちのチームは今年度の活動の多くの場面で協力者のご厚意によって実践できているが多かった。
- ・協力者から頂いた意見だが、学生が協力者に気を遣わず、ありのままを発表し学びを深めることができるよう学生だけで学びを共有する場を設けてはどうかと思う。
- ・国試を控える4年生には〇〇月以降は訪問しないなど、規定を定めた方がよいと考える。COC自体は良い学びの機会で本学の自慢できるカリキュラムであると考えているが、それ以前に4年制大学で国試合格率が100%にならなければ、入ってくる学生が減ってしまうと考える。

### (3)教員

教員も学生の変化を感じている。また、地域における大学の役割についても考えられている。

#### 平成28年度予防的家庭訪問実習 担当教員アンケート結果より抜粋

##### ①本実習について学生の学び、変化について

###### 対象理解の機会

- ・学生は、家庭訪問を通して、協力者から生活者としての人間を理解する機会を得ていると思います。

###### コミュニケーション能力の獲得

- ・頼りなさそうな不安な表情をしていた学生たちが、生き活きとした表情で高齢者の方とお話するようになってきたと感じる。協力者の話をよく聞くようになった。
- ・良い関係性が築けているように思う。コミュニケーションがとれるようになった。
- ・話の奥にある協力者の身体の変化などにも関心が向くようになった。
- ・「予防的家庭訪問実習」という実習が去年に比べて定着してきた印象があります。学生もこの実習に時間を割くことに抵抗がなくなり、学生生活に組み込まれてきていると感じます。

###### 学生同士の学び合いの機会

- ・学年があがるとチームの中で役割（質問する人、計測する人、連絡を取る人など）をもって主体的に動くようになるようになり、下級生を自然とフォローするようにもなった。
- ・3,4年生が下の学年の学生に実習やほかの勉強のことなどを教えている。ほかの学年のカリキュラムを考慮して助け合っている。

##### ②本実習が始まりってからの自身の変化について

###### 教育能力の向上（変化）

- ・学生の成長を感じ、会話の中やレポートの中から、どのような経験や思いが次につながるのかを見ており、このことが日々の教育につながってきた。
- ・普段関わることのない学生と関わる機会となった。
- ・学年の違う看護学生、つまり看護の知識や経験が異なる学習状況の学生間でも、カンファレンスが成立するのがとても楽しかった。自由で柔軟な発想ができるし、他の看護学実習の期間よりも長い期間のかかわりになるので協力者さんのイメージがそれぞれの学生に明確にあり、十分にカンファレンスができると感じた。
- ・学生と一緒に協力者のご自宅にお邪魔することで、自分自身も高齢者の生活や健康に対する思いについて理解が深まったと感じています。
- ・変化（介入）に目が行きがちだが、維持・予防するという視点の大切さや共に過ごす（時間を共にする）ことの大切さを改めて感じています。

###### 地域、教育への関心の変化

- ・協力者の方々が学生に何か教えたい、何か一緒に取り組みたいと思い、動き出していくことが嬉しいです。家庭訪問の実践からの教材化を考えるようになりました。
- ・大分というまちを意識してみるようになった。

# 4

## 健康教室

### ●目的

予防的家庭訪問実習で見出された課題に対して、学生が健康教室を開催し、地域の高齢者の自立を促進するとともに、地域の再生・活性化に寄与することを目的とする。

### ●概要

(1)大学祭（若葉祭）、(2)対照群調査、(3)ななせの里まつりで健康教室を行った。「講義スタイル」ではなく「参加・体験型」の健康教室とした。

健康教育 参加者・参加学生数表

単位 (人)

	若葉祭	対照群調査	ななせの里まつり	合計
参加者数	80	270	498	848
参加学生（延べ人数）	3	102	29	134
参加学生（実人数）	3	15	29	47

### ●実施内容

#### (1)大学祭（若葉祭）

①日時：平成28年5月14日（土）・15日（日）

②内容：A. 塩分濃度についてのクイズ

B. 認知症予防のゲーム

③参加者数：80名

④参加学生：4年次生3名

⑤参加者の様子：お子さんから若年の方、中高年の方、ご年配の方など多世代の方の参加があった。「面白かった」、「（塩分当てクイズや大豆皿移しが）意外と難しい」、「もう一度やってみたい」、「（しりとり）言葉が意外と出てこないものですね」、「負けて悔しい」など色々な反応があったが、一方的な健康指導ではなくお互いにやりとりする様子が多くみられた。



若葉祭での健康教室の様子

## (2)高齢者サロン

### ①日時・参加者数（延数）

地 区	サロン名	施 設 名	日 時	参加者数 (人)
野津原地区	ななせいきがいくらぶ	多世代交流プラザ	平成28年8月4日（木） 10：00～12：00	13
	原村ふれあいサロン	原村ふれあい センター	平成28年8月23日（火） 9：00～12：00	23
	竹の内ふれあいサロン	竹の内公民館	平成28年9月1日（木） 9：00～12：00	19
	Nスポ野津原 いきいき元気教室	Nスポランド	平成28年9月8日（木） 10：00～11：30	22
	サプナ健康体操チーム	多世代交流プラザ	平成28年9月13日（火） 9：00～11：00	34
	上詰ふれあいいいき サロン	上詰公民館	平成28年9月29日（木） 14：00～17：00	25
	新町地区ふれあい サロン	新町公民館	平成28年10月13日（木） 9：00～12：00	21
富士見が丘団地	わかば老人クラブ、 長寿会 ※合同開催	富士見が丘 公民館	平成28年9月12日（月） 10：40～11：50	56
	はつらつサロン		平成28年10月12日（水） 10：00～12：00	40
他	田島地区こころの会	田島公民館	平成28年9月2日（金） 9：00～10：45	17
合 計				270

②内容：熱中症予防、認知症予防

③参加学生：102名（延数）

④参加者の様子：参加者からは「若い子と話すことができて楽しい。」「（健康教室で学生が）いろいろ教えてくれて、ありがとう。」という感想が聞かれた。「学生のいつもと違う一面をみることができました。あんなに大きな声で堂々と話ができるとは知らなかった。」という教員の声もあった。参加者、学生ともに反応は良く、楽しく会話している様子が多く見られた。

⑤地域住民による動画制作

佐藤 克治（野津原地区自治委員協議会 会長）の協力を得て制作した。

制作動画

- A. 高齢者サロン健康づくり教室-原村ふれあいセンター  
（撮影日 平成28年8月23日）
- B. 高齢者サロン健康づくり教室-上詰公民館  
（撮影日 平成28年9月29日）
- C. 高齢者サロン健康づくり教室-新町公民館  
（撮影日 平成28年10月13日）





対照群調査での健康教室の様子

### (3) ななせの里まつり ブース出展

- ①日時：平成28年11月6日（日）
- ②内容：握力測定・握力測定後に配布した資料を用いて説明・指導
- ③参加者数：498名（5～80歳代）
- ④参加学生：29名
- ⑤参加者の様子：子供から大人まで幅広く握力測定に参加があり、地域の方々が握力測定に興味を持っていることが分かった。待ち時間が短く気軽に測定できたため、「握力測定をしたい」という方が多かった。



ななせの里祭りでの握力測定ブースの様子



# 5

## 学内での教育・研究体制

### ●事業評価

#### (1)対照群調査

##### ①目的

予防的家庭訪問実習が実習協力者に与える効果を明らかにするために、「実習協力者」と「実習に参加しない方」（対照群）の生活・健康状態を経年的に比較することを目的とする。

##### ②方法

###### A. 情報（研究データ）収集方法

###### I. 予防的家庭訪問実習協力者

・学生が、実習での聴き取りや観察を通して、協力者から情報（研究データ）を収集した。情報が不足している場合には、看護研究交流センター職員が訪問し追加情報を収集した。

###### II. 対照群

・実習協力者と同じ地区（野津原地区と富士見が丘団地）の高齢者サロンに参加する原則75歳以上の高齢者を対象とした。  
 ・看護研究交流センター職員とボランティア学生が高齢者サロンに行き研究に関する説明を実施、同意が得られた方を対象として情報（研究データ）を収集した。

###### B. 情報（研究データ）収集項目

###### I. 健康や生活に関する項目

###### II. 血圧、脈拍、体力測定（握力、立位保持時間）

##### ③実施状況

###### A. 期間:平成28年8月4日(木)～10月13日(木)

###### B. 調査場所:全11か所(野津原地区7か所、富士見が丘団地3か所、植田地区1か所)の高齢者サロン

###### C. 実施内容

###### I. アンケート調査（調査内容説明、同意書記入）

###### II. 身体測定（身長、体重、血圧、脈拍）

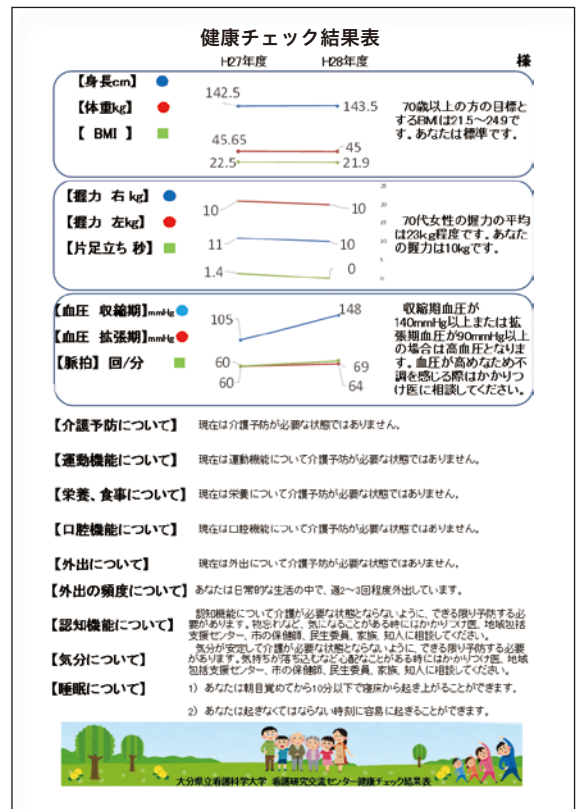
###### III. 体力測定（握力、開眼片足立ち）

###### D. 結果表送付

右写真のような健康チェック結果表をひとりひとりに送付



血圧、脈拍測定・問診



健康チェック結果表

実施状況一覧表

調査日	時間	サロン等	会場	参加者数(人)
				28年度
8月4日(木)	10:00~11:00	ななせ生きがいクラブ	野津原支所多目的ホール	13
8月23日(火)	9:00~10:20	原村ふれあいサロン	原村ふれあいセンター	23
9月1日(木)	9:00~10:20	竹の内ふれあいサロン	竹ノ内公民館	19
9月2日(金)	9:00~10:45	田島地区こころの会	田島公民館	17
9月8日(木)	10:00~11:30	Nスポいきいき元気教室	Nスポランド	22
9月12日(月)	9:10~11:50	わかば老人クラブ	富士見が丘公民館	48
9月12日(月)	10:40~11:50	長寿会		8
9月13日(火)	9:30~11:00	サブナ健康体操 チーム	野津原支所 大会議室	34
9月29日(木)	14:00~15:00	上詰ふれあいいきいきサロン	上詰公民館	25
10月12日(水)	10:00~12:00	はつらつサロン	富士見が丘公民館	40
10月13日(木)	9:00~12:00	新町地区ふれあいサロン	新町公民館	21
計				270



質問紙調査の様子

## (2)米国 Colorado 大学名誉教授 Kathy Magilvy 博士によるスーパービジョン

### ①家庭訪問

同行日時：平成28年11月16日（水）

参加者：Kathy Magilvy 博士、（通訳：朴）

甲斐 博美、Gerald T. Shirley、桑野 紀子、  
馬場 奈穂、岩崎 りほ、板井 里枝

参加学生：66 チーム 小金 千秋（4 年次生）、  
藤澤 彩花（2 年次生）、松田 佳吾（1 年次生）  
40 チーム 下手 愛千音（2 年次生）、  
富高 稜華（1 年次生）、永家 実歩（1 年次生）

内 容：訪問前のカンファレンスで学生が当日  
の訪問実習の目的を Kathy Magilvy 博  
士に伝えた。博士は学生と共に予防的  
家庭訪問実習に同行し、野津原地区、  
富士見が丘団地の協力者宅を学生と共に訪問した。訪問後、カンファレンスを行なった。



徒歩で協力者宅へ向かう Magilvy 博士と学生

### ②地域関係者との交流会

日 時：平成28年11月17日（木）

13：00～14：30

場 所：中会議室

参加者：Kathy Magilvy 博士（通訳：朴）

（野津原地区）佐藤 克治、渡邊 信司、

（富士見が丘団地）品川 晴美、竹上浩 二、生野 信頼

（大分県）加来 理香

（大分県立看護科学大学）村嶋 幸代、岩崎 りほ、板井 里枝、巻野 希和

内 容：Kathy Magilvy 博士と事業推進会議委員の方々との交流を目的とした座談会を初めて開催し、親睦を図るとともに意見、感想を聞いた。地域で進む高齢化や学生の地域活動への参加について、「地域同士の繋がり」、地域と大学の連携などをテーマに活発な意見交換が行われた。



地域関係者と挨拶をする  
Kathy Magilvy 博士



座談会に出席した地域関係者と教員

### ③学生との交流会

日 時：平成28年11月15日（火）13：30～15：00

場 所：13,14演習室

参 加 者：Kathy Magilvy 博士、(通訳：馬場 奈穂・朴)

4年次生10名

岩崎 りほ、板井 里枝、巻野 希和、生野 法子

内 容：以下の質問に関して意見交換を行った。

- ・あなたは、この訪問実習が始まった時はどう思いましたか？今は、どうですか？
- ・あなたは訪問実習で何を学んでいますか？（病院実習と違う点は？）
- ・あなたは、訪問実習で苦労していることは何ですか？
- ・この実習をより良いものにするには、どんなことをすればいいと思いますか。
- ・地域の調査に参加しての感想

（この中で地域調査に参加した人）：どうでしたか？

感 想：学生からは、「実習が始まった当初は戸惑うことが多かった。」「病院では見ることができない姿を見ることが出来た。地域で生活している協力者として捉えることができた。」と率直な意見を聞くことが出来た。また日程調整など困っていることについても学生同士でアドバイスし合う場面があった。



学生の意見を聞く Kathy Magilvy 博士



座談会での学生と教員の様子



座談会に出席した学生と教員

#### ④事業進捗報告

日 時：平成28年11月17日（木）10：00～12：30

場 所：中会議室

出席者：Katyh Magilvy博士（通訳：馬場 奈穂・朴

影山 隆之、野津 昭文、馬場 奈穂、岩崎 りほ、板井 里枝、巻野 希和、村嶋 幸代

内 容：事業の経過と評価について説明し、研究発表について報告した。

アドバイス：事業の中で教員はとても大切な役割を担っている。学生は、予防的家庭訪問実習が始まったことで、地域を見る視点が出来、地域で活動することを見出した。次の段階としてボランティアとして健康教室に参加した。学生が興味を持ち、ボランティア活動に参加した事は非常によい実習からの成果ではないか。



教員による事業の説明



訪問実習についてアドバイスをする  
Kathy Magilvy博士

#### ⑤コンサルテーション

日 時：平成28年11月22日（火）13：00～15：00

場 所：中会議室

出席者：Katyh Magilvy博士（通訳：馬場 奈穂）

影山 隆之、川崎 涼子、野津 昭文、馬場 奈穂、岩崎 りほ、

板井 里枝、巻野 希和、村嶋 幸代

内 容：同行訪問、学生・地域関係者との交流会の振り返り、事業の進め方について

アドバイス・コメント：事業が進むと目標が変化することがある。長期的な目標を立てたうえで、検討していくことが必要。

- ・ 問題点や改善点を学生と教員とが共有した方が良い。
- ・ 異なるチーム同士での情報交換も必要。
- ・ 実習を終える際、学びを振り返りまとめたものを下級生に残した方が良い。学生にとって振り返ることは大切である。
- ・ 地域関係者が学生に親しみを感じていると思った。



コンサルテーション風景



集合写真

### (3)外部発表

#### ①学術誌掲載

- ・岩崎 りほ, 平井 和明, 板井 里枝, 影山 隆之, 村嶋 幸代: 高齢者の健康と生活から学生が学ぶ予防的家庭訪問実習、看護展望、41(10):42-46、2016

#### ②学会発表

- ・Iwasaki,R., Sato,T., Magilvy,K., Kageyama,T., & Murashima,S. : Development of a project supporting aging in rural Japanese communities. 49th Western Institute of Nursing, Anaheim, USA. 2016.4.9
- ・村嶋 幸代, 福田 広美, 岩崎 りほ, 平井 和明, 野津 昭文, 影山 隆之: 看護学生による予防的家庭訪問実習 (第1報) 全学的取り組みの経過、第75回日本公衆衛生学会、大阪 2016.10.27
- ・野津 昭文, 岩崎 りほ, 平井 和明, 川崎 涼子, 福田 広美, 影山 隆之, 村嶋 幸代: 看護学生による予防的家庭訪問実習 (第2報) ~効果測定の基本ラインデータ~, 第75回日本公衆衛生学会、大阪 2016.10.27
- ・岩崎 りほ, 平井 和明, 甲斐 博美, 野津 昭文, 影山隆之, 村嶋 幸代: 看護学生による予防的家庭訪問実習 (第3報) 学生の学びの様相、第75回日本公衆衛生学会、大阪 2016.10.27
- ・平井 和明, 岩崎 りほ, 野津 昭文, 影山 隆之, 村嶋 幸代: 看護学生による予防的家庭訪問実習 (第4報) 学生間の知的体験の様相、第75回日本公衆衛生学会、大阪 2016.10.28

#### ③講演

- ・影山 隆之: 全学生と全教員が参加する定期的な家庭訪問実習, 第44回九州地区学生指導研究集会, 大分 2016.9.1
- ・村嶋 幸代: 第1回 公立大学学長会議「地域づくりと公立大学の教育」, 北九州市立大学, 2016.10.10
- ・影山 隆之: ~大学が変わる×学生が動く×地域が起つ=地域創生~, 鹿児島, 2016.10.29

#### ④ブース展示

- ・第75回日本公衆衛生学会, 大阪 2016.10.26-28

### ● 予防的家庭訪問実習通信 (学内メールマガジン)

平成28年9月より、「予防的家庭訪問実習に関する情報」を全学に配信。

目的: 看護研究交流センターが予防的家庭訪問実習に関する情報を発信し、学生や教職員が共有する。

対象: 学生、教職員

配信頻度: 1月に1回程度

本年度は9月15日(木)、10月7日(金)、12月15日(木)、2月28日(火)の計4回配信

内容: 訪問回数状況のお知らせ、健康づくり教室のお知らせ、予防的家庭訪問実習に関する番組放映のお知らせ、協力者交代についてのフォロー内容、チームの支援内容や活動の紹介。

## 学内メールマガジンの例

ほほ月 予防的家庭訪問実習通信 Vol. 1  
2016.9.15

看護研究交流センターです。

9月から、ほほ月1回ペース「ほほ月」で、「予防的家庭訪問実習に関する情報」を全学に配信することになりました。皆様からの意見を踏まえ内容を充実させていきたいと思っております。ご意見・ご感想などふるってお寄せ下さい。今回の通信では、以下の4つについての情報を発信します。

+++++  
今回の配信内容

- ①予防的家庭訪問実習 ラジオ放送
- ②訪問回数・健康チェック調査票
- ③学生ボランティアの健康づくり教室開催中
- ④協力者様の交代について

### ①予防的家庭訪問実習 ラジオ放送

### ②今後の訪問回数・健康チェック調査票

いよいよ、後学期が始まりました。他の実習や講義などスケジュールを確認し、計画を立て実習に臨んでください。健康チェック調査票について、チームで進めていますか？1月の最終訪問までに、可能な範囲で情報を得て行きましょう。チームメンバー・担当教員と相談しながら進めて下さい！

### ③学生ボランティアの健康づくり教室開催中

学生ボランティアが中心となり、8月4日～10月13日の期間で、野津原地区、富士見が丘団地にて「健康づくり教室」を開催中です。

ほほ月 予防的家庭訪問実習通信 Vol. 2  
2016.10.7

看護研究交流センターです。

台風、大きな被害がなく安堵しています。さて、これから秋本番、冬支度の時期となっていきます。スポーツの秋、食欲の秋、読書の秋...皆さんはどんな秋にしますか？「よく遊び・よく学ぶ」楽しい大学生活になることを祈ります。

今回の通信では、以下の4つについての情報を発信します。

- ①訪問バッグの新調・教材提供
- ②実習記録の再確認・サインのお願い
- ③健康チェック調査票
- ④新しいスタッフの紹介(看護研究交流センター)

### ①訪問バッグの新調・教材提供

訪問バッグの新品への交換作業が終了しています。使い心地はいかがですか？バッグに限らず、「訪問実習に必要な物品」について、改善を要することがあれば、看護研究交流センターに連絡してください！★予防的家庭訪問実習でパンフレットなどを作成する場合、看護研究交流センターから「画用紙」「ペン」など、文房具類が提供可能。事前にメールを送ってから来てもらえると安心。ex)「○○チーム、画用紙○枚○日にお願いします」

### ②実習記録の再確認・サインのお願い

皆さんの実習記録、毎回読ませて頂いています。とても良い学びが出来ていますね。ただ、中には、数か月前のまま記録が止まっていて「この先が知りたい！読ませてほしい！」という記録があったこともしありました。

ほほ月 予防的家庭訪問実習通信 Vol. 3  
2016.12.15

看護研究交流センターです。

めっきり冷え込む季節となりましたが風邪はひいていませんか？いよいよ今年も大詰め！今年もあと少しとなりました！元気に乗り切りましょう！今回の通信では、以下の5つについての情報を発信します。

+++++  
①予防的家庭訪問実習最終レポート・自己評価表について

- ②訪問回数について
- ③年度末訪問実施中
- ④米国からマギルビー博士が来日
- ⑤予防的家庭訪問学会発表報告

### ①予防的家庭訪問実習最終レポート・自己評価表について

### ②訪問回数について

### ③年度末訪問実施中

看護研究交流センター職員と担当教員で協力者さんのお宅を訪問し、今年度の訪問のお礼とご挨拶をしています。協力者さんからは、「学生さんの訪問を楽しみにしています。」という声や、「学生さんと一緒に散歩をするようになりました。」というお話を伺っています。3月頃までには全協力者さんのお宅へ伺う予定です。

ほほ月 予防的家庭訪問実習通信 Vol. 4  
2017.2.28

看護研究交流センターです。

本年度、最後のメルマガになります。★4年生の皆さん「国家試験」お疲れ様でした。1年間実習のリーダーとして取り組んでください。ありがとうございます。★1～3年生の皆さん、1年間お疲れ様でした！新しい年度に向けて英気を養う春休みにして下さいね！今回の通信では、以下の3つについての情報を発信します。

- ①新年度オリエンテーション
- ②協力者さんからの声
- ③日本文理大学とのCOC合同シンポジウム報告

### ①新年度オリエンテーション

### ②協力者さんからの声

看護研究交流センターでは、昨年末から2月にかけて80名の全協力者さんのお宅に、チームの担当の先生方と訪問をしてきました。皆さんの取り組みが、協力者さんの健康、そして生活に大きな影響を与えていることが実感できました。以下、協力者さんの声です。

【協力者さんからの声】  
・毎日学生さんに教えてもらった体操をしたり、血圧測定・記録をはじめから昨年より血圧が安定しています。  
・運動が苦手だったけれど、学生さんと一緒にウォーキングをするようになりました。  
・塩分濃度を測定してもらってから、減塩を心がけるようになり、外食も減り、降圧薬の内服量も減りました。  
・ほんとうに、生きがいになっています。

# 6

## 日本学術振興会による地方創生推進事業（COC+） 平成28年度評価

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」として採択されている全国の大学が、今年度は日本学術振興会による中間評価を受けました。これは、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の着実かつ効果的な実施に資するために、各事業の進捗状況や成果及び事業の継続・発展性を見通しなどを評価する目的で実施されたものです。

その結果、本学の事業は、S評価を受けました。S評価は、5段階のうち最高位の評価で、これを受けたのは全国76大学中の7校（全体の9.2%）のみでした。

平成28年度評価 評価結果

選定年度	平成25年度	整理番号	31
大学等名称	大分県立看護科学大学		
事業名称	看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた地域のまちづくり事業		

（「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業委員会」による評価）

**（総合評価）**

S：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。

**【コメント】**

**【優れている点】**

- ・看護系大学の利点、優れた点を最大限に生かして、他地域の手本となる取組を展開しており、更にそれを確実にモデル化して還元する姿勢を持っていることは高く評価できる。
- ・開発、試行、実施、改善という一連の流れの中でカリキュラムを確立していることが明瞭であり、その目標設定やデザインも適切である。また、地域、ステークホルダー、学生、教員等の連携も明確であり、それぞれに効果がもたらされている点は優れた設計に基づく事業展開と言え高く評価できる。

**本学の評価結果  
「S評価」**

評価の区分

区分	評価
S	計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
A	計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
B	一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
C	取組に遅れが見られるなど、総じて計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するためには、当初計画に基づく目標の早急な達成や事業規模の縮小等に向け、事業計画の抜本的な見直しが必要である。
D	現在までの進捗状況に鑑み、本事業の目的を達成できる見通しが無いと思われるため、採択事業への財政支援を中止することが必要である。



# IV

広報

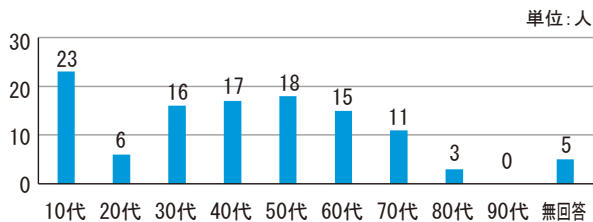


# 1

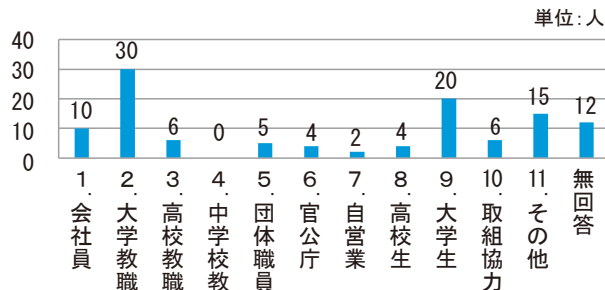
## 大分県立看護科学大学・NBU日本文理大学合同シンポジウム ～地域をまもり、地域をつくる、大学の取り組み～

- 日時：平成29年2月18日（土）13：00～17：00
- 場所：ホルトホール大分
- 参加者：244人（一般：92人、事業協力者とその家族：12人、外部講師：4人、両学学生・卒業生：50名、両学教職員：86名）
- 発表学生：6チーム：甲斐 瑞希（3年） 安東 楓（2年） 井上 優花（1年）  
31チーム：波多野 ひかり（3年） 奥野 晴香（2年） 嶋田 和佳子（1年）
- 協力者コメント発表：櫻井 宗之 御手洗 博子
- 卒業生コメント発表：小畑 春香（平成27年度卒業）
- コーディネーター：佐賀大学 全学教育機構 教授 五十嵐 勉
- パネリスト：大分県企画振興部政策企画課 課長 磯田 健  
大分信用金庫事業先サポート室 課長代理 三重野 幸一  
日本文理大学経営経済学部 副学部長 鍋田 耕作  
大分県立看護科学大学看護研究交流センター センター長 影山 隆之
- コメンテーター：共愛学園前橋国際大学 学長 大森 昭生
- プログラム：
  - ・開会の辞  
平居 孝之（日本文理大学 学長）
  - ・基調講演  
地学一体で取り組む人材育成の成果と課題  
大森 昭生（共愛学園前橋国際大学 学長）
  - ・大学COC事業の各大学取り組み・発表
    - ①大分県立看護科学大学の取り組み
      - ・事業紹介「看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた地域のまちづくり事業」  
杉本 圭以子（大分県立看護科学大学 講師）
      - ・学生成果発表  
「看護学生の“ささやかな”気づきを地域のために ～ご夫婦が望む生活のための支援～」(6チーム)  
「協力者さんから学んだ 地域とのつながり」(31チーム)
    - ②日本文理大学の取り組み
      - ・事業紹介「豊かな心と専門的課題解決力を持つおおいた地域創生人材の育成」  
市田 秀樹（日本文理大学工学部COC担当 特任准教授）
      - ・学生成果発表  
「Kids Smile Project ～佐賀関自然体験活動支援～」  
「域学協働での地域づくり」
  - ・パネルディスカッション  
テーマ『COCの成果をどう考えるか』～大分の未来をまもり、つくる人材育成と地方創生～
  - ・閉会の辞  
村嶋 幸代（大分県立看護科学大学 学長）
- その他内容：訪問観・物品展示、ポスター展示
- アンケート集計結果：  
回収数：114枚

参加者の年齢

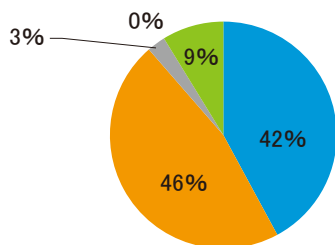


参加者の職業



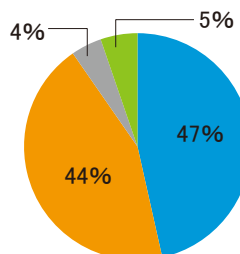
1. 今回の成果発表会 & 合同シンポジウム (全般) の内容はどうでしたか。

1.大変良かった 2.良かった 3.普通 4.あまり良くなかった 5.良くなかった 無回答



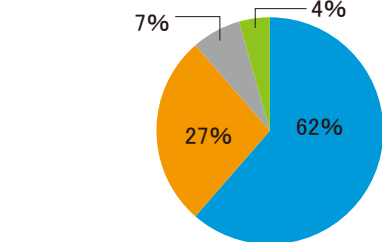
2. 「基調講演」の内容はどうでしたか。

1.大変良かった 2.良かった 3.普通 4.あまり良くなかった 5.良くなかった 無回答



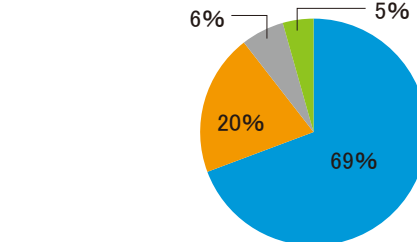
3. 「各大学取組・成果発表」の内容はどうでしたか。看護大のCOC事業の取り組み内容について

1.興味を持った 2.少し興味を持った 3.普通 4.あまり興味を持てなかった 5.興味なし 無回答



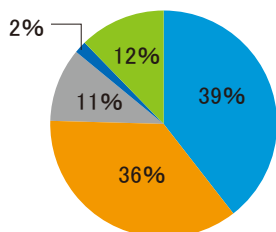
4. 「各大学取組・成果発表」の内容はどうでしたか。看護大の学生の取り組み成果発表について

1.興味を持った 2.少し興味を持った 3.普通 4.あまり興味を持てなかった 5.興味なし 無回答



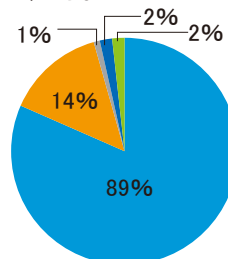
5. パネルディスカッションの内容はどうでしたか。

1.大変良かった 2.良かった 3.普通 4.あまり良くなかった 5.良くなかった 無回答



6. 文理大と看護大の「地(知)の拠点整備事業」合同成果発表会を、今後も開催した方がよいでしょうか。

1.継続を期待する 2.数年に一度の開催を期待する 3.あまり期待しない 4.開催を期待しない 5.わからない 無回答



### ●参加者の感想（一部抜粋）

- ・若者、COCの発展の可能性を非常に感じた。
- ・学生の体験学習の上にたった発表だったので、迫力があり非常に感動的で心に残り、ためになった。4時間は長いと思って来たが、長く感じなかった。
- ・これまでCOCの取り組み自体を知らなかったが、色々な地域でこのような成果がでていることがすばらしいと感じた。今後も継続した取り組みを期待している。
- ・地域に大変協力的な大学があることはとても心強い。学生の素直な、真面目な取り組みに、力強く感じ、感謝している。
- ・地域の方々からの声に感動した。地域での活動には様々な苦労があるかと思うが、素晴らしい活動なので、ぜひ続けて欲しい。
- ・期待以上の内容だった。
- ・学生が経験した失敗について報告があれば、もっと面白かったのではないと思う。
- ・大分県立看護科学大学のCOCの事業の立ち上げの時に関わらせていただいたが、学生の目覚ましい成長を頼もしく思った。良い体験をした学生達が社会や地域で活躍してくれる事を期待する。
- ・学生の訪問は老人にとって大きな楽しみの一つである。
- ・学生だけでなく協力者さんからも意見を聞くことができ、貴重な機会だった。効果は良く伝わったが、デメリット・課題についてももっと提示したらよいと思った。
- ・知事、市長、企業関係者にも参加して頂ければ、さらに充実すると思う。



学生による発表



学生による発表



協力者による発表



協力者・卒業生による発表



村嶋幸代学長による閉会挨拶



集合写真

# 2

## テレビ放映（TOSテレビ大分） ～家庭訪問実習場面～

- **放送日時**：平成28年7月2日（土）11:30～11:45
- **番組名**：「ほっとはーとOITA」
- **放送局**：テレビ大分（TOS）
- **参加者**：①担当教員：福田 広美（79チーム）、平井 和明（12チーム）  
②学生：79チーム 金子 陽菜（4年次生）、野田 優奈（3年次生）、柳井 優希（1年次生）  
12チーム 崎平 藍（3年次生）、江藤 美咲（1年次生）、井上 七海（1年次生）  
③看護研究交流センター：岩崎りほ、巻野 希和、板井 里枝  
④広報：橋本正和  
⑤学外：TOS取材陣5名 大分県職員2名
- **放送内容**：大分県が企画している番組であり、県が調整を行った。学生が、熱中症予防、塩分の取りすぎ予防についてパンフレットを作成・持参し、家庭訪問を行った。



協力者へパンフレットを渡し説明する学生



インタビューを受ける学生

# 3

## ラジオ放送（OBS大分放送） ～大学と地域の連携～

- **放送日時**：平成28年9月17日（土）10：40～10：54
- **番組名**：「たんねるけん！」
- **放送局**：大分放送（OBS）
- **参加者**：①学生：矢野亜紀子（4年次生）  
②教員：佐藤弥生、岩崎りほ、村嶋幸代
- **放送内容**：予防的家庭訪問実習の目的、学び、協力者の反応、地域との連携等を紹介した。  
「訪問の中で、自分たちも、訪問の協力者さんと同じ地域で生活する地域の一員として接するよう心がけました。今後、病院ではなく地域で療養される方も多くなると思います。病院であっても、地域であっても、その方が過ごしたいと思う場所で、その方らしく生活することを支えられる看護師になれたらと思います。」（学生の発言 放送内容一部抜粋）



村嶋学長の収録シーン



取材を受ける学生と教員

資料





# 大分県立看護科学大学 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)推進会議設置要綱

## 目 的

第1条 地（知）の拠点整備事業を大分県立看護科学大学（以下、「大学」という。）と地域、関係機関が連携して効果的に推進し、地域住民の健康寿命の延伸と生活の質の向上を図ることによって、地域のまちづくりに寄与するとともに、大学として新たな取り組みによる質の高い看護教育効果を達成できるよう事業計画や進行管理、評価等を行うため事業推進会議（以下、「会議」という。）を設ける。

## 任 務

第2条 会議は、次に掲げる事項について検討協議する。

- (1) 事業推進計画に関すること。
- (2) 事業の中間評価、事業評価に関すること。
- (3) その他事業の推進に関すること。

## 組 織

第3条 会議は、委員30人以内で組織する。

- 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 会議に委員長及び副委員長を置く。
- 4 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

## 職 務

第4条 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

## 代 理

第5条 委員である者が会議に出席できない場合には、その会議当日のみ代理の者を委嘱された委員の代わり委員と認めるものとする。

## 幹 事 会

第6条 会議に、事業の推進に関する調査研究を行うため、幹事会を置く。

## 庶 務

第7条 会議の庶務は、大分県立看護科学大学が行う。

## 雑 則

第8条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則 この要綱は、平成25年10月1日から施行する。

# 大分県立看護科学大学 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)推進会議幹事会運営要領

## 1 目 的

幹事会は、大分県立看護科学大学地(知)の拠点整備事業推進会議設置要綱に基づき、地(知)の拠点整備事業(以下、「事業」という。)の効果的な推進について研究することを目的とする。

## 2 任 務

幹事会は、次に掲げる事項について研究を行う。

- (1) 事業の計画に関すること。
- (2) 事業の評価、見直しに関すること。
- (3) その他事業の推進に関すること。

## 3 組 織

- (1) 幹事会は、幹事若干名で組織する。
- (2) 幹事会は、必要があると認められるときは、関係者に出席を求めて意見を聴くことができる。

## 4 庶 務

幹事会の庶務は、大分県立看護科学大学で行う。

## 5 そ の 他

この要領に定めるもののほか、幹事会の運営に必要な事項は別に定める。

### 附 則

この要領は、平成25年10月1日から適用する。

平成28年度 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)幹事会メンバー 平成28年4月1日現在

区 分	氏 名	所 属 ・ 組 織 等	役 職
野津原地区	川本 浩史	野津原地域包括支援センター	センター長
	有賀美枝子	大分市保健所健康課 西部保健福祉センター野津原健康支援室	参事補兼室長
富士見が丘団地	野口 咲美	植田西地域包括支援センター	センター長
	羽田多佳子	大分市保健所健康課西部保健福祉センター	参事補
	小田原純平	大分市保健所健康課西部保健福祉センター	専門員
大分市	菊田 和子	大分市役所福祉保健部長寿福祉課	参事
大分県立 看護科学 大学	村嶋 幸代		学長
	影山 隆之	精神看護学研究室・看護研究交流センター	研究科長・ 看護研究交流センター長
	岩崎 りほ	看護研究交流センター	助教
	飯田 隆次		事務局長

平成28年度 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)地域連絡会議メンバー 平成28年4月1日現在

区 分	氏 名	所 属 ・ 組 織 等	役 職
野津原地区	佐藤 克治	野津原地区自治委員連絡協議会	会長
	渡邊 信司	大分市市民部野津原支所	支所長
	有賀美枝子	大分市保健所健康課 西部保健福祉センター野津原健康支援室	参事補兼室長
富士見が丘団地	品川 晴美	富士見が丘連合自治会	会長
	竹上 浩二	富士見が丘連合自治会	福祉部長
	高田かず子	横瀬地区社会福祉協議会	事務局長
		横瀬地区民生児童委員協議会	富士見が丘担当
生野 信頼	富士見が丘公民館	事務長	

## 平成28年度 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)推進会議委員名簿

◎：委員長      ○：副委員長

平成28年4月1日現在

区分	氏名	所属・組織等	役職等
野津原地区	○佐藤 克治	野津原地区自治委員連絡協議会	会長
	分藤 靖弘	野津原地区社会福祉協議会	会長
	工藤富士隆	野津原地区民生児童委員協議会	会長
	川本 浩史	野津原地域包括支援センター	センター長
	渡邊 信司	大分市市民部野津原支所	支所長
	有賀美枝子	大分市保健所健康課 西部保健福祉センター・野津原健康支援室	参事補兼室長
富士見が丘団地	品川 晴美	富士見が丘連合自治会	会長
	高田かず子	横瀬地区社会福祉協議会 横瀬地区民生児童委員協議会	事務局長 富士見が丘担当
	野口 咲美	植田西地域包括支援センター	センター長
	藤田 庄司	大分市市民部植田支所	参事兼支所長
	羽田多佳子	大分市保健所健康課西部保健福祉センター	参事補
	竹上 浩二	富士見が丘連合自治会	福祉部長
	生野 信頼	富士見が丘公民館	事務長
小田原純平	大分市保健所健康課西部保健福祉センター	専門員	
大分郡市医師会	◎岩波 栄逸	大分郡市医師会	理事（岩波内科クリニック院長）
大分県看護協会	甲斐久美子	大分県看護協会	副会長
大分県国民健康保険団体連合会	浅野 康之	大分県国民健康保険団体連合会事業課	課長
	大島 敦子	大分県国民健康保険団体連合会事業課	主幹
大分市	後藤 剛	大分市役所福祉保健部長寿福祉課	課長
	菊田 和子	大分市役所福祉保健部長寿福祉課	参事
	竹野美和子	大分市保健所健康課	課長
	中宗三和子	大分市保健所健康課	参事
	小林 由美	大分県福祉保健部福祉保健企画課	主幹
大分県	加来 理香	大分県福祉保健部医療政策課	課長補佐（総括）
	渡邊 康弘	大分県福祉保健部高齢者福祉課	主幹（総括）
	村嶋 幸代		学長
大分県立看護科学大学	影山 隆之	精神看護学研究室・看護研究交流センター	研究科長・ 看護研究交流センター長
	藤内 美保	看護アセスメント学研究室	学部長
	福田 広美	保健管理学研究室	教授
	小野 美喜	成人・老年看護学研究室	教授
	川崎 涼子	地域看護学研究室	准教授
	稲垣 敦	健康運動学研究室	教授
	宮内 信治	言語学研究室	准教授
	杉本圭似子	精神看護学研究室	講師
	定金 香里	生体反応学研究室	学内講師
	巻野 雄介	基礎看護学研究室	助教
	山田 貴子	看護アセスメント学研究室	助教
	岩崎 りほ	看護研究交流センター	助教
	板井 里枝	看護研究交流センター	臨時助手
	平井 和明	看護研究交流センター	臨時助手
	巻野 希和	看護研究交流センター	ティーチング・アシスタント
	今池 純子	看護研究交流センター	ティーチング・アシスタント
	飯田 隆次		事務局長
	石倉 順	総務チーム	リーダー（課長補佐）
	矢野 昌哉	教務学生チーム	副主幹
	神崎 純子	看護研究交流センター	事務員
岩田 祐未	看護研究交流センター	事務員	

## 平成28年度 訪問実習プロジェクトメンバー

平成28年4月1日現在

村嶋 幸代 (学長・理事長)  
藤内 美保 (学部長・看護アセスメント学教授・理事)  
影山 隆之 (訪問実習プロジェクトリーダー・研究科長・看護研究交流センター長・  
精神看護学教授・理事)  
稲垣 敦 (健康運動学教授)  
小野 美喜 (成人・老年看護学教授)  
福田 広美 (保健管理学教授)  
宮内 信治 (言語学准教授)  
川崎 涼子 (地域看護学准教授)  
杉本圭以子 (精神看護学講師)  
定金 香里 (生体反応学講師)  
岩崎 りほ (看護研究交流センター助教)  
巻野 雄介 (成人・老年看護学助教)  
山田 貴子 (看護アセスメント学助教)  
  
飯田 隆次 (事務局長・理事)  
石倉 順 (総務チーム リーダー (課長補佐))  
矢野 昌哉 (教務学生チーム副主幹)

## 平成28年度 看護研究交流センタースタッフ

平成28年4月1日現在

影山 隆之 (センター長)  
岩崎 りほ (助教)  
平井 和明 (助手)  
板井 里枝 (助手)  
巻野 希和 (ティーチング・アシスタント)  
今池 純子 (ティーチング・アシスタント)  
神崎 純子 (事務員)

発行日 平成29年6月

発行者 大分県立看護科学大学 看護研究交流センター

〒870-1201

大分県大分市大字廻栖野 2944-9

TEL 097-586-4300 (大学代表)

TEL 097-586-4346 (看護研究交流センター 直通)

FAX 097-586-4347

E-mail k-center@oita-nhs.ac.jp

<http://www.oita-nhs.ac.jp/np/coc>

平成28年度事業報告書 編集メンバー

岩崎 りほ (助教)

平井 和明 (特任助教)

板井 里枝 (助手)

巻野 希和 (ティーチング・アシスタント)

神崎 純子 (事務員)

生野 法子 (事務員)



